



News Letter

2023/3

日本医療安全学会事務局

〒431-3192 静岡県浜松市東区半田山 1 丁目 20-1 浜松医科大学総合人間科学基礎研究棟 306 号室

<http://www.jpsscs.org/> Email: office@jpsscs.org TEL:053-433-3812 FAX:053-435-2236

目次

- 01 第9回総会に参加して、医療安全の未来を展望しませんか？
- 03 メディカル・ピアソーター育成の始まりと意義
- 04 医療機器安全部会の活動紹介
- 05 インフォームド・コンセント推進部会より
- 06 総務委員会よりお知らせ
- 07 編集後記

第9回総会に参加して、医療安全の未来を展望しませんか？

共同総会長 荒神裕之

(山梨大学医学部附属病院 医療の質・安全管理部 特任教授)

第9回日本医療安全学会総会が、いよいよ間近となりました。3月11日（土）、12日（日）の2日間、東京理科大学との共催により同大葛飾キャンパスで開催されます。大会テーマである「Zero Avoidable Harmを目指して」の旗印の下、幅広い分野から数多くの専門家をお招きし、多職種協働・連携に基づく持続可能な医療安全を、地域差や施設間の格差なく確立するための学びの場となるプログラムを構成しました。中でも特に注目のプログラムを4つご紹介します。

注目1：「科学技術立国」の再興に向けて～地方国立大学学長からの提言～

山梨大学学長の島田眞路先生をお招きし、低迷する我が国の研究力とその再興に向けた方策をご講演いただきます。アカデミアとしての鋭い視点と豊富な経験に基づく直言居士を持ち合わせた島田学長が描く、真の科学技術立国実現のための道標に注目です。

注目2：医療の質と安全の向上を求めて - 私のやってきたこと -

NTT 東日本関東病院名誉院長で GS1 ヘルスケアジャパン協議会会長などの要職をお勤めの落合慈之先生をお招きし、NTT 東日本関東病院の12年間の病院長時代から追い求めてこられた、誤謬を排し、組織全

体が医療の質の確保と安全の向上のために一丸となれるような文化の醸成についてご講演いただきます。

落合先生が追い求めて来られた夢でもある今回のご講演内容に注目です。

注目 3：医療のための失敗学～異分野からの提言～

東京大学名誉教授で（株）畠村創造工学研究所主宰、NPO 法人失敗学会理事会長の要職にある畠村洋太郎先生をお招きし、畠村先生が提唱されて、様々な失敗・事故の調査や原因分析に用いられてきた「失敗学」についてご講演いただきます。第一人者として取り組んで来られた事故の未然防止を目指す「失敗学」は、医療分野においても参考にすべき点が多く注目です。

注目 4：医療 DX がもたらす未来。～持続可能な社会保障を実現するために～

衆議院議員で、自由民主党 副幹事長の小林史明先生をお招きし、医療データを共有、活用できる将来像についてご講演いただきます。持続可能な医療であるために、デジタルの活用を進めて業務を効率化し、医療の安全性を高めていく、こうした未来を展望するご講演の内容に注目です。

第 9 回総会では、そのほかにも魅力的な委員会企画によるシンポジウムや、お弁当がお楽しみのランチョンセミナーなどもご用意して、多くの会員、医療安全関係者のご参加をお待ちしています。現地開催ならではの学会員同士の直接交流が可能です。ぜひリアルワールドでの交流をお楽しみいただければ幸いです。

事前参加登録は 2023 年 2 月 26 日（日）まで受付中です。皆様からのご登録、お待ちしています。

メディカル・ピアサポート育成の始まりと意義

ピアサポート部会長 和田仁孝

(早稲田大学 法学学術院 教授)

医療事故に直面し傷ついた医療者を支えるためのピアサポートについて、世界的に取り組みが始まっている。アメリカに始まったこの動きは世界的に普及し始めており、わが国でも、日本医療ピアサポート協会の設立やシンポジウムなど、少しずつ広がりを見せてきている。この新たなピアサポートの考え方は、これまでとは異なるコンセプトに基づいて、その役割モデルおよび組織体制を充実させていこうとするものである。

他方で、事故当事者へのケアは、いうまでもなく、従来から、どの医療機関にとっても大きな課題であり、各施設でも様々な取り組みが行われてきた。そのことが逆に災いし、現状の取り組みとの明確な区別が不明瞭なまま、新しいモデルとしてのピアサポートへの理解が進まず、現状からの改善が進んでいない状況にある。

こうした中で、日本医療安全学会でも、2年前よりピアサポート部会を設置し、新たなモデルとしてのピアサポート概念の普及を目指して検討を行ってきた。その具体的な課題が、メディカル・ピアサポート研修の実現と、学会認定制度の整備であった。

日本医療ピアサポート協会 Heals との緊密な協働によって、2022 年度には、8月と 12 月の 2 回、養成研修を実施することができた。研修はコロナ禍の中、ZOOM を用いたオンラインの形で行われ、「ピアサポートの背景をなす理念」、「その基本的考え方や組織体制」、「海外の動向」から、「具体的な事例を踏まえてのサポートの必要性の検討」、「精神科医の立場からのサポートのあり方やスキルの紹介」、そして「ロールプレイによる実践的学び」など、2 日間にわたって、多様な内容を学ぶ機会を提供するものである。ハードな研修ではあるが、満足度も高く、ピアサポートの概念や役割の理解を促すものとなった。8月には 30 名超、12 月には 40 名超の参加者があり、その後フォローアップ研究会の実施なども計画されている。また、学会認定制度もできたことから、参加者の多くは、学会認定を申請・取得している。

ただ、ピアサポートの考え方や仕組みを学び理解することと、これを自身の施設で実践することには大きなギャップが存在することも、また事実である。個々の志あるスタッフが、ピアサポートを学んだとしても、ピアサポートを実現する組織的体制が整わない現状では、そうした仕組を導入した海外の施設のように、その役割を有効に実現していくには大きな困難が伴う。現状の中でピアサポートの理念をどう生かすかについては、受講者による研究会の中でも、様々なアイデアを出し合って、実践的な方策を検討している過程である。

今後、本学会ピアサポート部会でも、この実践的普及のあり方について、テーマとして取り組んでいくことにしたい。まずは、第一歩を踏み出した研修と認定制度は、それ自体が目的ではなく、ピアサポートの考え方と理念を広く医療界に発信し、定着を促していく手段としての意義をも有していると考えている。

医療機器安全部会の活動紹介

医療機器安全部会長 田仲浩平
(東京工科大学 医療保健学部 教授)

医療機器安全部会は、医療機器の安全管理に関する学術活動を推進するための提言、シンポジウムの開催などを行うことを目的としています。部会委員は、医療専門職の資格（医師・歯科医師、看護師、臨床工学技士）を有する臨床経験豊富な専門家で構成されています。

2022年6月11日と12日、浜松で開催された第8回の学術大会では、医療機器安全部会から、医療現場のアンメットニーズとして、「生体情報モニターのインシデント事例におけるヒューマンファクターズ」というテーマでシンポジウムを行いました。本シンポジウムでは、インシデント事例とその背景、現場における対策として看護職から、インシデント事例における生体情報モニターの課題として臨床工学技士職、インシデント事例における生体情報モニターの改善点と今後の開発というテーマで企業の方が講師となり、具体的な事例をあげながら講演を行って頂き、それぞれの立場から問題点の確認と効果的な対策についてディスカッションを行いました。

2023年3月11日と12日、東京で開催される第9回学術大会において、医療機器安全部会からシンポジウムを2つ企画しました。1つは「医療機器安全管理責任者は誰が適任か」としました。演者は、私立病院、私立大学病院、市民病院、国立大学病院の医療機器安全に携わる4施設の臨床工学技士長の方が、現状の配置状況、役割と課題について講演して頂き、各自の経験や考えをもとに講演を行い、患者第一の観点のもと、会員の皆様とともにディスカッションを行いたいと思います。

2つ目は、医療サイバーセキュリティーシンポジウムとしました。現在、医療施設をターゲットとしたサイバー攻撃によるランサムウェア（身代金要求ソフトウェア）で多くの小規模が大きな被害を受けています。第9回の学術大会シンポジウムでは、ランサムウェアで多大な被害を受け復旧させた経験をお持ちの医療施設の事業管理者（医師）と、サイバー攻撃及びランサムウェアを分析し、対策を講じる側の専門家を講師として招き、注目のシンポジウムを行います。ここでは、医療専門職として特に注意すべき対策についてお話しを頂きます。是非、本シンポジウムの場で、会員の皆様方からのご意見を伺いたいと思います。

今後、医療機器安全部会では、最新の医療機器の医療機器安全に関する課題及び話題とともに、IoT等を用いた効果的な医療安全対策についてシンポジウムの企画、また、注目の医療施設向けのサイバーセキュリティに関する講演についても継続して設定していくたいと考えています。

以上、会員の皆様の学術活動に役立つ医療機器安全関連の話題提供、課題解決に結び付く各種講演、シンポジウム等の企画を設定し、学術活動を推進させていきたいと思います。

インフォームド・コンセント推進部会より

IC 部会長 松村由美
(京都大学医学部附属病院医療安全管理部 教授)

インフォームド・コンセント推進部会をご紹介します。部会には、医療者、新聞記者、医療を受ける立場の方が委員として参加しています。日本におけるインフォームド・コンセントの標準とは何か、というテーマで議論し、標準的なインフォームド・コンセントを広めるための実践的な活動につながることを目的にしています。最初は、委員同士が全く互いを知らない状態であり、医療者の中でも専門診療科が違ったり、職種が違ったりして、やや緊張したり、遠慮しながらの Web 会議でした。しかし、回数を重ねるうちに、一人ひとりの考えが理解できるようになり、人となりが見えてきて、Web でありながらも、しっかりと意見が伝えられる関係が構築されてきました。そして、浜松で開催された学会で実際にお会いすることができ、リアルに会う機会を得ることで、一段と関係が強まったと思います。

インフォームド・コンセント推進の立場での流れは 2 つあります。ひとつは、今もなお、パターナリズムの強い、医師患者関係が残っており、医師によるハラスメントを受けて、自分の伝えたいことを聞いてもらえない患者さんが実際におられることに対する改善策を検討すること。もうひとつは、医師の説明にはばらつきがあり、伝えなければいけないこと（例：治療によるリスク）が、説明に含まれていなかったりすることや手術直前の説明になっていることも多く熟慮の機会が与えられていないこと。これらは、患者中心性（patient centeredness）、有効性(effectiveness)、安全性(safety)、効率性(efficiency)、適時性(timeliness)、平等性 (equity) に関わる問題です。この 6 つは、医療の質の目標とされるものですので、インフォームド・コンセントを適切に行うよう仕組みを変えていくことは、医療の質の向上に直結します。

インフォームド・コンセントの場では、患者さんの希望や疑問をしっかりと聞いて応えるというプロセスが重要だと部会では考えています。快適な場のセッティングや話しやすい雰囲気を作ること、忙しい日常臨床の中で、その場や時間をどのように生み出していくのか、ということについては、様々な立場のものが知恵を絞る価値のあることです。2 年間活動てきて、委員の中では、少しずつ考え方方が整理されてきました。しかし、まだ、十分に言語化できる段階には至っていません。あるべきインフォームド・コンセントの像が決まつたら、現状を分析して、あるべき像との差を埋める活動ができるのではないかと思いますので、引き続き活動を継続してまいります。

総務委員会よりお知らせ

総務委員会委員長 新村美佐香
(菊名記念病院 医療安全管理室長)

日本医療安全学会が新体制として活動し始めてから、早2年が経過しようとしています。新体制となってから、大磯理事長の下、現在まで様々な取り組みを進めてきました。各委員会、各部会の活動も活発に行われてきました。私が担当している総務委員会では、学会費の見直し、会員規定の改訂等を進めています。

今後学会がさらに発展していくよう、次年度も様々な取り組みを進めていきたいと考えています。現在進めているところでは、日本医療安全学会をもっと多くの皆様に知っていただくための学会PR動画を作成し、公開していくという企画です。

日本医療安全学会は医療安全分野だけに留まらず、幅広い分野から実に多くの先生方が所属されています。そこで各専門分野から2名の理事に参加していただき、「これから医療安全」と題して対談していただきます。この対談の様子は録画し、今後様々な場面で発信していきます。この企画はシリーズ化していくことも考えており、現在準備を進めているところです。配信日、配信場所が決まりましたら、HP上でご案内していきます。皆様、どうぞご期待ください。

日本医療安全学会は、会員の皆様と共に成長していくことを願っております。会員の皆様からのご意見、ご要望がありましたらぜひお寄せください。各委員会、部会で検討させていただきます。今後とも日本医療安全学会の運営に、ご協力いただけますようお願い申し上げます。

編集後記

2023年も早3月となり、第9回日本医療安全学会総会が近づいてまいりました。2023年3月11-12日、「Zero Avoidable Harmを目指して」をテーマに、東京理科大学葛飾キャンパスにて開催されます。代表総会長森田明夫先生、共同総会長和田仁孝先生・荒神裕之先生、はじめ実行委員の皆様のご尽力により対面開催に向けて準備が進んでおります。

今回のニュースレターでは、第9回総会のご案内に始まり、ピアサポート部会、医療機器安全部会、インフォームド・コンセント推進部会、総務委員会の活動についてそれぞれご報告いただきました。現在、日本医療安全学会では7つの委員会、20の部会が活動をしており、第9回総会にても多くのシンポジウム等が企画されています。ぜひこの機会に学術総会にご参加いただき、会員同士で意見交換の機会を持っていただけましたら幸いです。

ニュースレターでは、会員の皆様からの寄稿も歓迎しております。学会事務局または広報委員会までお気軽にご連絡ください。

2023年3月発刊号担当 広報委員会 秋山美紀、石井宣大、井上真智子